

富巨細胞骨腫瘍の臨床病理学的検討

1. 研究の対象

1990年1月1日以降2019年9月30日までに、防衛医科大学校 整形外科にて巨細胞を呈する骨腫瘍（修復性巨細胞肉芽腫、骨巨細胞腫、軟骨芽細胞腫、動脈瘤様骨嚢腫、富巨細胞性骨肉腫など）の診断・治療のため通院し、治療を受けた方が本研究の対象となります。

2. 研究目的・方法

目的：骨腫瘍の中には、病理組織学的に破骨細胞型多核巨細胞が多く出現する腫瘍がいくつかあります。具体的には、修復性巨細胞肉芽腫、骨巨細胞腫、軟骨芽細胞腫、動脈瘤様骨嚢腫、富巨細胞性骨肉腫などが含まれます。良性のものから、悪性のものまで存在しますが、多くは中間悪性に分類される原発性骨腫瘍であり、しばしば局所再発、まれに遠隔転移を呈し、治療に難渋することもあります。各組織で治療法が異なるため、正確な診断が必要ですが、各組織に特徴的な診断マーカーがないため、過去の症例においては病理診断が難しい症例も多く存在します。

近年、科学の進歩により、各組織に特徴的な遺伝子異常が発見され、診断マーカーとしての有用性が報告されるようになってきました。本研究では、慶應義塾大学病院整形外科、および関連施設による慶應骨軟部腫瘍研究会（Keio-AMOR）の多施設共同研究として、過去に診療を行った富巨細胞骨腫瘍の新規診断マーカーの探索や新しい診療戦略の確立を目指し、臨床病理学的検討を計画しました。

方法：Keio-AMORに参加している施設において、1990年以降に診断・治療を行った、富巨細胞性骨腫瘍の患者さんの病状の経過、治療の詳細を調査します。各施設は匿名化した診療情報を研究事務局（慶應義塾大学医学部整形外科）に送ります。事務局は、送られた診療情報をまとめ、解析を行います。

本研究の実施期間：本研究許可日～ 2019年9月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

対象となる患者さんの、診療情報（年齢、性別、受診した時の症状、腫瘍の発生日、臨床病期に関する情報、病理に関する情報、治療内容に関する情報、治療後の経過など）を収集させていただきます。加えて手術検体の解析を行います。近年、骨巨細胞腫や軟骨芽細胞腫の原因となる遺伝子が同定されたため、その遺伝子や破骨細胞の活性化に関わる遺伝子の発現を調べます。なお、個人を特定できるような情報は収集しません。

4. 外部への試料・情報の提供

事務局へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。
対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

慶應義塾大学病院整形外科	中山 ロバート（講師）
国立病院機構東京医療センター整形外科	森岡 秀夫（医長）
東京歯科大学市川総合病院整形外科	穴澤 卯圭（教授）
立川病院	鈴木 禎寿（部長）
杏林大学整形外科	森井 健司（准教授）
川崎市立井田病院整形外科	西本 和正（部長）
国立がんセンター中央病院 骨軟部腫瘍科	小林 英介（医長）
栃木県立がんセンター骨軟部腫瘍科	菊田 一貴（科長）
防衛医科大学校整形外科	須佐 美知郎（講師）

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：防衛医科大学校整形外科 講師 須佐 美知郎
電話 04-2995-1211（内線 2345）

研究代表者：国立病院機構東京医療センター 整形外科医長 森岡 秀夫